

# 最新IT動向と企業情報システムへのインパクト

主催：野村総合研究所 2010年5月18日

野村総合研究所（NRI）は、IT（情報技術）の最新動向に関するITアナリストの調査研究の成果を公開する「ITロードマップセミナー」を定期的で開催している。今回は「最新IT動向と企業情報システムへのインパクト」というテーマで講演を行い、503人に参加いただいた。

セミナーは4つのセッションで構成され、今後の情報システム構築において利用が拡大すると予想される技術の動向と、そのビジネスへのインパクトについて展望した。

第1セッションでは技術調査部の城田真琴がクラウドコンピューティング（以下、クラウド）について解説した。城田は、利用のさらなる拡大が見込まれる「パブリッククラウド」、企業内にクラウドを構築する「プライベートクラウド」の動向について紹介するとともに、情報システム部門にとっては、クラウドの利用を意識したシステム開発・調達スタイルへの移行が必要となることを説明した。

次の第2セッションでは、同調査部の武居輝好がスマートグリッドの動向を述べた。武居はまず、欧米の動向と比較しながら、日本におけるスマートグリッドへの期待は、再生可能エネルギーと電力網（グリッド）の接続による効率的な電力利用、および新興国への輸出産業促進による産業活性化に集まっていることを説明した。

また、消費者サイドにおける消費電力活用およびその周辺領域のアプリケーション（適用）を紹介し、スマートシティ（街全体でのエネルギー消費の最適化）への応用の可能性を示唆した。

第3セッションでは、同調査部の田中達雄がエク

スペリエンステクノロジー（経験創出技術）について解説し、顧客の嗜好や行動、保有するデバイス、企業との接し方などが多様化するにつれ、非対面の顧客チャネルの活用目的が、「顧客を集める」から「顧客に近づける」に変化していることを示唆した。また、企業における包括的なエクスペリエンスデザインと、チャネル投資の再配分・最適化の必要性についても述べた。

最後の第4セッションで同調査部の亀津敦は、「ツイッター（Twitter）」などの消費者のライフストリーム（行動の記録などをインターネットに公開すること）データの増大を踏まえ、これらを利用する周辺ビジネスの拡大について解説した。亀津は、従来のCRM（顧客関係管理）ではわからなかった潜在顧客の声を分析できるようになった現在、商品やサービスの提供チャネル、およびセールスの役割を再考すべきであることを説明した。

参加者に対するアンケート結果では、本セミナーへの参加目的は、「最新情報技術の動向調査」「情報技術全般の大きな潮流の把握」が多い。

NRIでは、今後も年2回のペースで本セミナーを行っていく予定である。次回は11月30日の開催を予定している。

なお、本調査研究の成果は、東洋経済新報社から、野村総合研究所技術調査部『ITロードマップ2011年版』と題して2010年末に刊行される予定である。

本セミナーについてのお問い合わせは下記へ  
ITロードマップセミナー事務局  
電子メール：it-rm-qa@nri.co.jp